

原発一揆---被曝牛と生きる

「希望の牧場」は福島第一原発から14キロに位置し、原発事故による放射能汚染が続く現在も、避難区域に指定され、居住は許されていない。しかし、政府の避難指示に従わず、吉澤氏は今も、被曝牛を含めた約300頭の牛と共に、「治外法権化」した牧場で暮らしている。

講師 吉澤正巳さん
希望の牧場・ふくしま代表



◁◁◁ とき ▷▷▷

2019年10月28日(月)

18時30分～20時

◁◁◁ ところ ▷▷▷

Lプラザ(北8条西3丁目)

4階 中研修室A・B

◁◁◁ 参加費 ▷▷▷

資料代として500円を申し受けます

◇ プロフィール

1954年 千葉県四街道市生
1977年 東京農業大学畜産学科卒
2011年 一般社団法人 希望の牧場・ふく
しま設立 代表理事

- ・福島原発の事故による復興は8年を経過した現在でもとても UnderControlといえる状態ではありません。
- ・今回は福島原発被災地の生の状況を直接学ぶ機会として、被災時から現在まで浪江町の希望の牧場に在って、被災直後の惨状に怯むことなく家畜の救護や飼料の確保、立ち退きを迫る行政との対立、東京への街宣行動、浪江町長選への出馬など、疾風怒濤の8年を伺い、あらためて原発は廃炉以外に選択肢はないことを現場の事実から学びます。

主催 REファイナルボランティアツアー有志の会 <https://refinal.jimdo.com/>

申込は 担当 武藤正雄まで Mail tq3m-mtu@asahi-net.or.jp

またはFAX011-774-0787へお名前、電話番号をご記入の上送信ください。